

良知しゅんいち 活動報告



第9号

ご挨拶

いつも大変お世話になっております。浜松市北区選出の県議会議員の良知駿一です。2023年になり早くも3月を迎えます。皆様いかがお過ごしでしょうか。今冬は冬らしい冬で、強烈な寒波も襲ってきました。体調を崩さないよう、暖かい服装、適切な暖房器具や加湿器の使用を心掛けていただければと思います。また冬は空気が乾燥する時期でもあります。火の元には十分お気を付けいただきますようお願い申し上げます。今回のご報告は12月定例会までになります。ご一読いただければ幸いです。

前回(第8号・12月)の活動報告からの議会の動き

静岡県の予算概要

前回の報告から12月定例会があり、一般会計補正予算の編成を中心に審議がありました。台風15号による災害への対応、物価高騰対策、県民の安全・安心の確保、地域の「稼ぐ力」の回復・強化を中心に編成されました。

補正月	金額	目的
(当初)	1兆3,861億7,500万円	
12月	142億9,300万円	台風15号による災害への対応、物価高騰対策等
12月(追加)	513億2,900万円	県民の安全・安心の確保、地域の「稼ぐ力」の回復・強化等
【累計】	1兆4,517億9,700万円	

予算の概要



●台風15号による災害への対応(60億2,300万円)

- 被災者支援関連事業費(15億8,120万円)
台風15号による被災者を支援するため、住宅被害を受けた世帯や応急救助などを行う市町に対する助成等を行う。
- 災害復旧費(32億6,300万円)ほか
台風15号により被災した公共土木施設の復旧工事等を実施する。

●物価高騰対策(61億700万円)

- 医療機関等物価高騰対策支援事業費(22億6,000万円)
物価高騰の影響を受けているにもかかわらず、価格転嫁が困難な医療機関等を支援するため、支援金を給付する。
- 燃油等価格高騰緊急支援関連事業費(34億4,400万円)ほか
原油・飼料価格の高騰により、経営が逼迫している施設園芸農家・畜産農家・漁業者等に対して、燃油及び飼料の購入費の一部を支援する。

事務所のご案内

〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7172-698
ラトゥール101

静岡県議会議員
良知しゅんいち事務所

連絡先
TEL : 053-523-7400
FAX : 053-523-7401
Mail : rachi0814@gmail.com
URL : https://rachi-shunichi.jp/

PROFILE

1982年 ● 8月14日生(浜松市)
1995年 ● 気賀小学校 卒業
1998年 ● 細江中学校 卒業
2001年 ● 浜松商業高等学校 情報処理科 卒業
2005年 ● 静岡大学 情報学部情報科学科 卒業
2007年 ● 静岡大学大学院 情報学研究科 修了
● 浜松市内のITベンチャー企業に就職
2010年 ● 浜松市消防団北区支団細江第4分団 入団
2015年 ● 浜松市消防団北区支団細江第4分団 分団長就任
2017年 ● 浜松市消防団北区支団本部 大規模災害教育隊 入隊
2019年 ● 静岡県議会議員 初当選(浜松市北区選出)

得意分野: 情報通信技術・地域防災
趣味: バドミントン・ジム通い・ギター
音楽鑑賞(ジャズ・山下達郎・スティービーワンダー)

●県民の安全・安心の確保(334億6,600万円)

- こどもの安心・安全対策支援関連事業費(3億9,300万円)
国の経済対策に呼応し、子どもの送迎用バスへの置き去りを防止するため、安全装置等を導入する保育施設等に対して助成する。
- 出産・子育て応援事業費助成(23億5,840万円)ほか
国の経済対策に呼応し、妊娠期から出産・子育てまでの伴走型相談支援の充実や、妊娠や出生の届出を行った妊婦等に対する経済的支援を実施する市町に対して助成する。

●地域の「稼ぐ力」の回復・強化(163億4,400万円)

- 地域観光支援事業費(76億7,900万円)ほか
新型コロナウイルス感染症の影響を受けた県内観光産業の本格的な回復を図るため、旅行者と受入施設の双方の感染防止対策を徹底した上で、全国を対象にした観光促進事業「今こそしずおか元気旅」を実施する。

一般質問

2月定例会において、一般質問にて登壇の機会がありました。直近の県政の課題から4年間のまとめともなる問題提起まで幅広く質問しました。

【花博20周年記念事業の取組について】

Q

良知: 2024年3月に、浜名湖花博20周年記念事業が開催される。浜名湖花博20周年記念事業のテーマとして「人・自然・テクノロジーの架け橋〜レイクハマナデジタル田園都市〜」が掲げられているが、来場者は花の展示を見ることを目的とする客層が主と想定され、デジタル技術・製品を体験することはあくまでプラスアルファの要素である。
デジタル技術を活用するならば、例えば、スマートフォンのカメラによる花の名前や原産地・育て方などの検索や購入がまず押さえておくべき要素である。
県はデジタル技術をどのように活用し、花博を成功に導こうとしているのか。

A

農林水産担当部長: 本事業は、花緑、食と農、芸術文化などの要素を盛り込み、デジタル技術を取り入れることにより、新しい花博として県民の豊かな暮らしの創造を目指している。
デジタル技術の活用に向けては、花情報の提供について、企業等の協力を得ながら、会場内で利用できるアプリの開発に取り組んでいく。また、GPSと連動した会場内のルート案内や、広大なガーデンパークの周遊性を高めるスマートモビリティなどの導入を進め、来場者の利便性や快適性を向上していく。
県としては、デジタル技術の活用により花博の魅力を高め、訪れた多くの人々が、花緑のもたらす豊かさを体感していただけるよう、万全の準備を進めていく。

要望

事業の本来の目的を忘れず、準備を進めてほしい。

本会議
会議録



会議
インターネット
中継



一般質問

【これからの行政サービス提供の在り方(デジタルを活用した県づくりについて)】

Q

良知：ある住民が何らかの行政サービスを受けようとする際、その住民は自ら適した制度を探し、行政に利用の申請を行うが、住民が期待している行政サービスまでたどり着くには未だに困難なケースもある。行政サービスの広報など申請以前の問題である。また、補助金などの電子申請は、デジタル端末に不慣れな方も多い。行政サービスへの申請方法の問題である。さらに、被災時の応急住宅への入居では、入居の申込みの他に罹災証明書が必要だが、南海トラフ地震が起きた際には多くの被災者に罹災証明書の提出を求めるのか。行政として、県民の目線に立つべきである。行政サービスへの申請そのものの在り方の問題である。

個人的には、デジタルを活用することで、情報端末に触れる必要がなくなることがDXの考え方の一つだと思っている。

これから、添付書類などを減らす申請手続の簡略化に加え、そもそも申請そのものが必要であるかを検討し、申請自体をスキップできてしまうことが特に命や生活に関わる行政サービスの利用には求められるのではないかと。

県民の利便性向上とともに申請手続の見直し等に向け、県はこれからの行政サービス提供の在り方についてどのように考えるのか。

A

経営管理部長：県民の皆様が、行政サービスの申請を簡便に行えるよう、申請手続のオンライン化の推進に併せ、各種申請書への押印廃止や添付書類の削減等を進めている。

一方、国や他自治体においては、一人ひとりに合ったお知らせをスマートフォン等に表示するプッシュ型の情報提供や、各所属で保有する情報を統合し活用するワンストップサービスの実施といった先駆的な取組のほか、浸水の危険性がある地域の状況をリアルタイムで把握できるセンサーを設置し、災害時の早期対応や罹災証明の簡素化・迅速化に向けた実証実験を行うなど、新たな動きが出てきております。

県としては、こうした先進的な取組にも注視しつつ、例えば、職員が窓口で必要事項を聞き取り、県民に代わってシステムに入力する「書かない窓口」や、出先機関の窓口と担当部署を遠隔でつなぎ、身近な窓口でも相談等の対応が可能となる「リモート窓口」の導入など、提供するサービスの種類や状況に応じ、必要なサービスが必要とされる方へ適時・適切に届けられる行政サービス提供の在り方について検討していく。

【大規模災害に対応するための消防団活動について】

Q

良知：消防団の活動については、火災対応に主眼が置かれているが、全出動回数に対する火災出動回数の割合は低下しつつある。

一方、南海トラフ地震や、豪雨に伴う水害や土砂災害等への対応など、大規模災害に対する消防団の需要は増加していると感じる。

浜松市消防団は2017年に分団長経験者相当の団員からなる「大規模災害教育隊」を設立した。大規模災害教育隊は、救助器具の扱い方などを訓練し、その内容を分団に教える役割を担っている。しかしながら、このような体制をとっている県内の消防団はごくわずかであったことが判明した。

県内の消防団が大規模災害に対応できる体制を強化していけるように県として支援すべきではないか。

A

危機管理部長：県では、災害現場に必要なチェーンソー、エンジンカッターなど多様化するニーズに応じた資機材の整備について、市町に対し地震・津波対策等減災交付金により財政支援を行っているほか、県消防学校において、こうした資機材等を利用した災害活動訓練を、消防団員に対して実施しており、災害対応力の強化に努めているところである。

また、大規模災害を想定し、毎年実施している総合防災訓練や地域防災訓練等に、消防団が積極的に参加しているほか、本年11月に実施した緊急消防援助隊全国合同訓練においても、消防団に参加していただき、消防本部との連携の強化を図ったところである。

引き続き、市町への財政支援や消防学校での消防団教育を実施するとともに、地域防災訓練等を通じて、地域防災力の充実強化に努めていく。

要望

現役の消防団員はサラリーマンが増え、世代的に子ども・家庭の時間も大切である。活動の総時間を増やさないよう配慮してほしい。

- その他にも、
- 県の取組及び県民のための施策の充実（デジタルを活用した県づくりについて）
 - オープンデータの活用
 - 将来を見据えた3次元点群データの活用
 - パワーハラスメントに係る労使紛争への対応について という質問を行いました。

産業委員会

● 中小企業者物価高騰緊急対策事業費補助金に係る事業者情報の漏洩に関して不具合が生じた申請システムの開発関係者とその関わり方を質問。今後、増加が見込まれる各種申請システムの検収をしっかりと行うよう要望しました。

● 自動車産業の電動化対応について 電動化に取り組んでいる企業が伸び悩んでいることを指摘。県の支援体制を大きく改善するよう要望しました。

● スマート農業の広がりについて 農業のスマート化の効果や感触を質問。大規模農家や若い方だけでなく、小規模農家や高齢の方に対する導入サポートを要望しました。

● 重要病害虫アリモドキゾウムシの駆除に関して 国の重要病害虫に指定されている「アリモドキゾウムシ」の根絶に向けた取組の内容について質問。広い県民への広報を提案しました。

補助金システム不具合への対応




他の質問は会議録をご覧ください。

委員会会議録



牧之原市・園児バス置き去り事件から考えるデジタルとの共存

2022年9月5日、牧之原市の認定こども園の通園バスの車内に園児が置き去りにされ、熱中症で死亡したととも痛ましい事件がありました。

この事件においては、園児の車内での行動が多く報道されました。1歳半の娘を持つ私は、もし娘が同じ場面に遭遇したらと想像してしまい、テレビでの報道をまともに見れませんでした。

大人の些細なミスによって子どもの可能性に満ち溢れた未来が奪われてはならず、二度とこのような事件を起こしてはなりません。

さて、先述のとおり12月補正予算では「こどもの安心・安全対策支援関連事業費」として、送迎バスへの安全対策に対しての予算がつきました。

今後は、この予算を使った対策が本当に安全に繋がるのかチェック監査していかなければなりません。この安全対策の一つの観点として、事件当時に各メディアで議論もあった、「デジタル技術（機械）を活用した対策」があげられます。

人間は、日常的なチェックといった比較的難易度の低いタスクに対し「慣れ」が生じ、またその日の体調にも仕事の出来が左右されてしまうことがあります。（「慣れ」自体は作業の効率化でもあるため一概に欠点とは言えませんが）

一方デジタル技術は、タスクが単純か複雑かは関係なく、与えられた指示どおりに淡々とタスクをこなすという特徴を持っています。（反面、指示が間違っていると、間違った指示に従ってしまいます）

保育士の業務は慢性的な人手不足のうえ、消毒等のコロナ対応も重なり多忙を極めています。業務の流れの中で、単純な反復作業といったデジタル技術が得意とする部分はデジタル技術に任せ、人間の負担を減らしていくことが必要です。

お話しませんか？

私と1~数人でお話しませんか？
内容はなんでも結構です。身の回りのお困りごとやご相談、私のこれからの社会に対する考えなど…。お話の場を通じて政策へのひらめきも生まれることもありますので、ぜひお気軽にご連絡ください！
事務所への電話やメール、ホームページからの問い合わせなど、ご連絡方法は問いません。（連絡先は表面）

